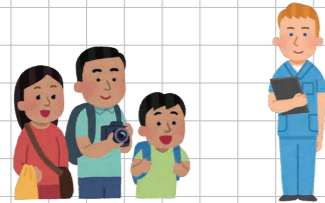


やさしい日本語

- 心温かい人々が暮らす町 -

『やさしい日本語』とは、だれにでも伝わるように言葉や文章を簡単にした日本語のことを言います。
「やさしい」の言葉は、簡単という「易しい」と、使う人の「優しい」気持ちの2つの意味が込められています。

外国からの
旅行者や
働く人



英語を話さない地域の人には、英語よりもやさしい日本語の方が伝わりやすいです。

障がいがある人



簡単で短い文章は、手話を使う人が目元を見たときにも内容が分かりやすいです。

高齢者や
認知症の人



漢字や熟語が多い長い説明より、簡単な文章は読みやすく、聞きやすいです。

子どもたち



難しい言葉を簡単な言葉に言い換えることで、子どもたちにも内容がわかります。

日ごろ、日本語を使う私たちは、災害の危険を知らせるとき、ごみの捨て方などの情報を伝えるとき、仕事で作業する内容を教えるときに、だれもが理解できるように説明する必要があります。地域のさまざまな人々とコミュニケーションをとるときに、「やさしい日本語」を使うことは効果がある方法です。

『やさしい日本語』のコツは「ハサミの法則」が基本です



- は** **つきり** 言う：はっきり伝える。あいまいな言い方はしない。
× 土足厳禁 → ○ 靴を脱いでください × 現金しか使えません → ○ 現金だけ使えます
- さ** **いごまで** 言う：文末まではっきり言う。途中で止めない。
× 郵便局に行きたいんですが… → ○ 郵便局にはどうやって行ったらいいですか
- み** **じかく** 言う：一文はみじかく言う。だらだらつなげない。
× 私は医者をしている兄がいます。 → ○ 私には兄がいます。兄は医者をしています。

地域には、いろいろな文化や価値観を持つ人たちが暮らしています。みんながちがいを認め合い、ともに協力するためには、お互いに話しあい、必要などときには助け合える関係づくりが大切です。
「英語が話せない」「手話がわからない」から、「相手に話しかけてもわからない」と思い込んでいませんか？
そんなとき、「やさしい日本語」を思い出して、やさしい言葉と気持ちで話しかけてみましょう。

人権 人権擁護委員制度をご存じですか？

6月1日は、人権擁護委員法が施行された日です。法務省及び全国人権擁護委員連合会では、6月1日を「人権擁護委員の日」と定めており、徳島地方法務局及び徳島県人権擁護委員連合会においても、この日を中心として、人権擁護委員制度の周知と人権思想の普及・高揚に努めています。

人権とは、私たちが人間らしく生きるための権利であり、人権や民族、性別などの違いにかかわらず、全ての人に共通して備わっている権利です。

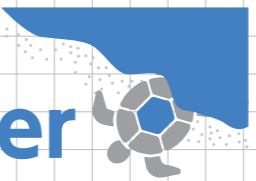
国の内外を問わず、人々がお互いに人権を守ることによって明るい社会をつくることを願って活動しています。相談は無料で、秘密は厳守されますので、ひとりで悩まずお気軽にご相談ください。

日時： 6月1日(土) 10:00～12:00 日和佐公民館 / 13:00～15:00 由岐公民館

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。
「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、「にぎやかそ」美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ News Letter

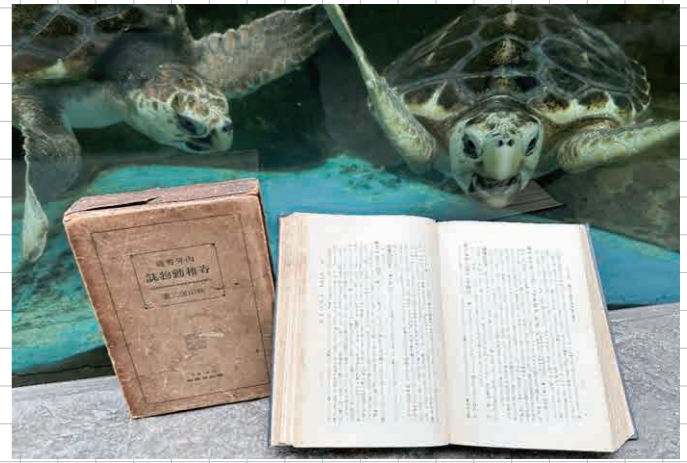
No.29



日和佐の「亀見」

多くの方がご存じのように、日和佐うみがめ博物館レッタは昭和25(1950)年から始まった日和佐中学校科学部海亀研究班の研究活動が発端となっています。今回の展示リニューアルでは、その活動内容や国際的な認知、その後、国内にウミガメ保全活動が広がった経緯に関する展示を拡充しました。加えて、中学校の研究活動より以前の日和佐とウミガメの情報を探るために文献調査をしたところ、昭和10(1935)年に発行された秋山連三著「内外普通脊椎動物誌(受験研究社)」という書籍の中に、「阿波の太平洋沿岸の一地、日和佐では七月から八月にかけて濱地に産卵に来る海亀の見物に、夜中提灯をさげた「亀見」の人で賑ふといふ。」という記述を確認しました。この書籍の著者は京都の旧制中学校で博物科を担当した教諭で、明治36(1903)年～昭和17(1942)年に執筆活動の記録が確認できました。ここか

ら判ることは、文末を「賑ふといふ」と聞き伝え形式としているので、SNSなど現代風の情報発信手段など無いその当時とすれば、日和佐の「亀見」は聞き伝えなどで著者に届くほどの情報だったのでしょうか。そして書籍の発行年が昭和10(1935)年であることから、この本の原稿を執筆していたと思われる昭和の初期に多くのアカウミガメが大浜海岸で産卵していた事の裏付けになりそうです。現代のエコツーリズムとも言える当時の「亀見」がどのようなスタイルで行われ、当時の産卵頭数、「亀見」の人がウミガメに及ぼした影響や対策などの詳細は判りませんが、とても興味深いお話です。(館長：平手康市)



うみがめについての質問をお送りください。お答えします！
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐 浦370-4 うみがめ博物館レッタ「質問係」
応募フォーム



Question 甲羅の無いウミガメはいますか？

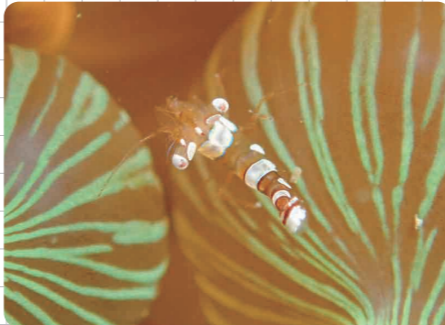
Answer 甲羅の無いウミガメはいません。ただ、皮ガメの別名を持つオサガメ(オサガメ科)は全身が皮でおおわれて、他のウミガメ(ウミガメ科)の様に鱗板がありませんので、甲羅が無いように見られるかもしれませんが、背中とお腹の皮の下には、甲羅の骨格があります。

みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します！



イソギンチャクモエビ



エビはたくさんの種類がありますが、今回はシャチホコのように尾を後ろに大きく反らすイソギンチャクモエビをご紹介します。体長1～2cmほどの小型のエビで、赤い体に白く丸い模様があり、尾を上下にフリフリしている様子はイソギンチャクの触手に擬態しているようです。普段はイソギンチャクの周囲で5、6匹もしくはそれ以上の個体と一緒にいていざ敵がやってきた時はイソギンチャクの下に逃げ込みます。普通のエビや小魚はイソギンチャクに食べられてしまいますがこのエビはうまく共生しているようです。(ダイバー：長楽美保)

